

## 地域ケア推進会議 報告書

## 【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年3月25日
作成 高齢者支援センター	忠生第2
作成者	井田 美喜子

1.開催日時	2023年3月11日	(土)	14:00	~	16:00	
2.会場	木曾コミュニティーベース、オンライン					
3.主催センター	忠生1	・	忠生2	・		
4.参加人数	41人					
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター	7人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター	1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者	7人	(うち、医師 3人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	19人	
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	3人	<input type="checkbox"/> 老人会	人	<input type="checkbox"/> 住民	人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会	5人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input type="checkbox"/> 行政	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	(障がい者支援センター 1人)				
6.開催テーマ	支え合いの町忠生「災害と感染症の中での私たちの暮らし」					
7.地域課題	(1)課題設定の背景					
	2年前に開催予定であったが、感染症拡大にともない話し合いができなかった。この2年間において医療・福祉関係者がどのような取り組みをしてきたかの情報共有から課題の抽出をおこなう。					
8.会議の内容	(2)検討した地域課題					
	再度の流行が到来した時に行動制限等、また元に戻すのではない対策を検討する必要がある。これまで各医療・福祉機関が行ってきた感染対策について、医療的な根拠に基づいた整理を行う必要がある。					
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	(1)各機関で行ってきた感染対策に関する取り組みを発表。					
	(2)6グループに分かれ、発表に対する感想や今までの取り組み、また今後どのように取り組んでいくかをグループで話し合いを行った。					
10.その他	(3)各グループで話し合った内容を発表。					
	(4)西村医師より総評。未知のウイルスによるパンデミックを経験し、新型コロナウイルスがなかった頃に戻ることは難しい。感染対策のガードをどこまで下げるのか基準がないから迷うが、ガードを上げることによるデメリット(基礎疾患の悪化など)があるためどこかで天秤にかけなければならない。立場によって、「WITHコロナ」「ZEROコロナ」と方針が異なるのはやむを得ない。コロナに限らず感染症は防ぎたいという気持ちは共通しているため、不可能ではあるが、感染を広めないよう継続的な対策を考えていく「ZERO感染」の考え方。話し合いだけで終わらないよう、地域への発信、住民への啓発が大切。					
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	新型コロナウイルスの経験でウイルス感染について学んだ知識を活かして、今後の継続的なプランをそれぞれの立場で検討し会議に参加していない一般住民や専門職に周知、表明する。 広報誌等を用いて、話し合った内容・忠生圏域でまとめた感染対策を地域住民へ発信を行う。また、災害時における感染対策についても検討を次年度も継続していく。					

医療と介護の連携支援センター 確認日	2023年3月24日
--------------------	------------